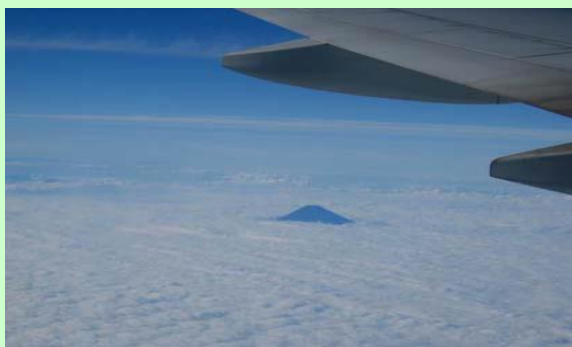




アメリカ北米大陸を横に・縦に飛行機でアメリカ中西部の穀倉地帯

グランドキャニオン
& ナイアガラ



アメリカ旅行記 2003.9.7.-9.22.

1. アトランタ Walk.
2. トロント・ナイアガラ Tour.
3. Country Music の 都 ナッシュビル.
4. ラスベガス.
5. グランド キャニオン.
6. サンフランシスコ.

by Mutsuo & Kikuko



ナッシュビル

トロント

ラスベガス

サンフランシスコ

アメリカ旅行 スケジュール表 2003.9.7. ~ 2003.9.22

【開空→アトランタ→トロント・ナイアガラ→アトランタ→ナッシュビル→アトランタ→ラスベガス・グランドキャニオン→サンフランシスコ→開空】

都市	月日	曜日	移動	TIME	便名	
大阪/開空 (サンフランシスコ)	7 Sep.	Sunday	出発	14:55	UA 810	
			トランジット	16:45	UA290	
アトランタ	8 Sep.	Monday	(Stay)	18:20		Hotel Sheraton Plaza Lenox
(シカゴ)	9 Sep.	Tuesday	出発	07:50	UA1503	● アトランタ Walk ジョージア テック・ミュージアム・under ground. ● 観劇『レ・ミゼラブル』 Hotel Sheraton Plaza Lenox
			トランジット	08:51		
トロント	10 Sep.	Wednesday	トランジット	10:50	UA1005	● トロント大学界隈 Walk Hotel FAIRMONT ROYAL YORK
				13:20		
(シカゴ)	11 Sep.	Thursday	出発	13:10	UA1015	● ナイヤガラ・ナイアガラオンザレーク ツアー ● トロント市街 Walk Hotel FAIRMONT ROYAL YORK
			トランジット	13:56		
アトランタ	12 Sep.	Friday	トランジット	15:50	UA1010	● Lenox 研分宅でアイスワイン飲む Hotel Residence IN Lenox
				18:50		
アトランタ	12 Sep.	Friday	(Stay)			● Lenox 界隈 Walk ● アトランタ Walk ストーンマウンテン・DM 見学。 ● 野時観劇 ブレーブス&フィリーズ Hotel Residence IN Lenox

都市	月日	曜日	移動	TIME	便名	
アトランタ	13 Sep.	Saturday	(Stay)			● ナッシュビル ツアー ケンタッキー・マンモス ケイブ。 研介の友達一家とディナー。 グランド オブリー Country Music コンサート Hotel Double Tree
(デンバー)	14 Sep.	Sunday	(Stay)			● Rock City Walk を経てアトランタへ ● 研介 友人夫妻とディナー Hotel Residence IN Lenox
ラスベガス	15 Sep.	Monday	(Stay)			● Lenox 界隈 Walk Hotel Pasadena In airport
サンフランシスコ	16 Sep.	Tuesday	出発	00:45	UA337	● ラスベガス WALK Paris のパッフェ Hotel PARIS LAS VEGAS
			トランジット	03:57		
				11:20	UA417	
				12:10		
サンフランシスコ	17 Sep.	Wednesday	(stay)			● グランドキャニオン ツアー 4:35 South Rim & Bright Angel Trail walking Hotel PARIS LAS VEGAS
サンフランシスコ	18 Sep.	Thursday	出発	13:35	UA1103	● ケーブルに乗ってフィッシャーマン ワーク Hotel THE WESTIN ST.FRANCIS
				15:00		
サンフランシスコ	19 Sep.	Friday	(Stay)			● 半日ツアー & down town walking Hotel THE WESTIN ST.FRANCIS
サンフランシスコ	20 Sep.	Saturday	(Stay)			● シリコンバレー & down town walking Hotel THE WESTIN ST.FRANCIS
大阪	21 Sep.	Sunday	出発			
				12:15	UA 809	
大阪	22 Sep.	Monday	帰国			アメリカ旅行 完了
				15:30		



アメリカ中西部
の穀倉地帯

グランドキャニオン
& ナイヤガラ



アメリカ旅行記

2003.9.7. - 9.22.

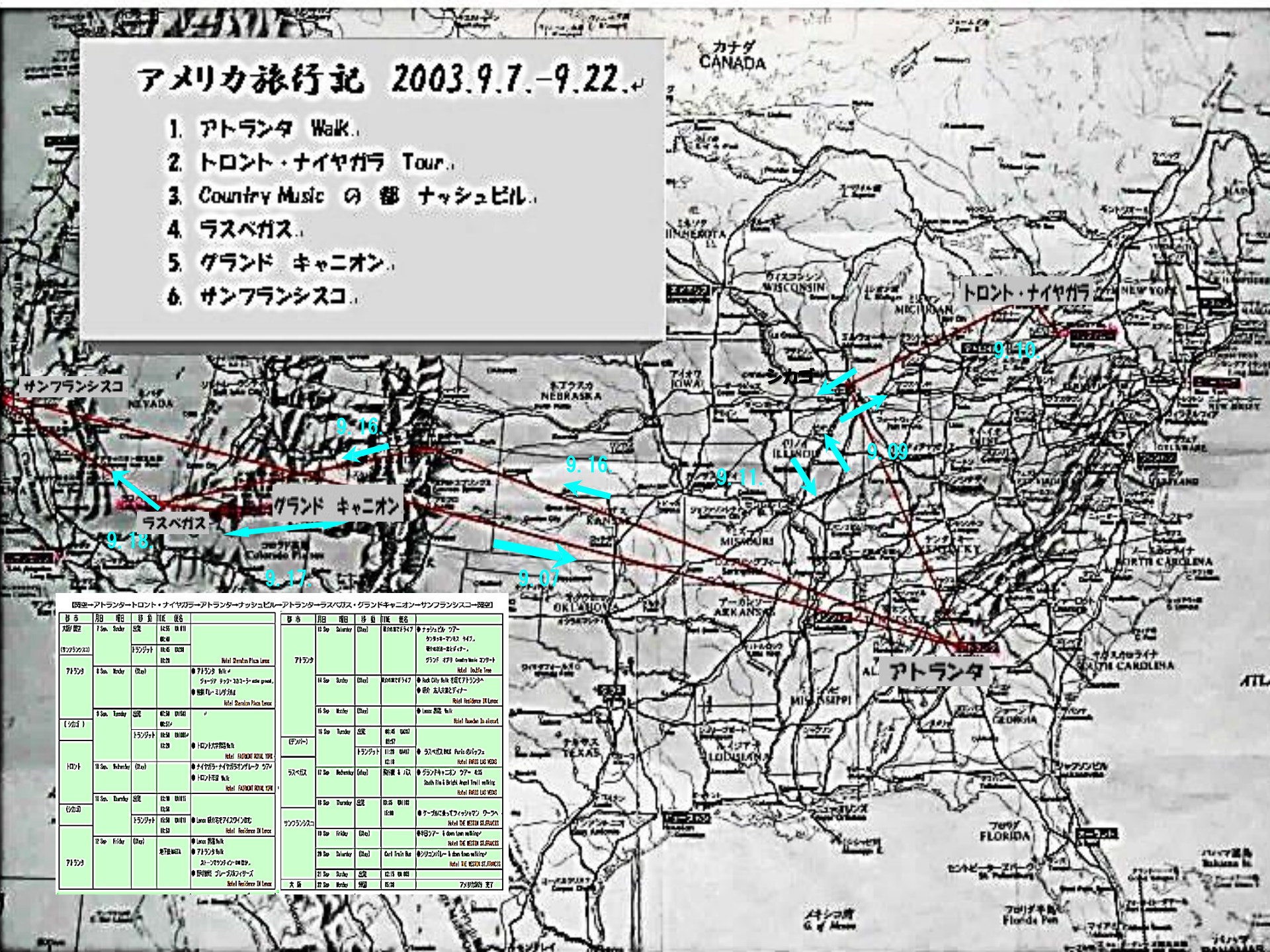
by Mutsuo & Kikuko

アトランタ



アメリカ旅行記 2003.9.7.-9.22.+

1. アトランタ Walk..
2. トロント・ナイヤガラ Tour..
3. Country Music の 都 ナッシュビル..
4. ラスベガス..
5. グランド キャニオン..
6. サンフランシスコ..

[illegible]

「久しぶりのアメリカで」風来坊 2003.9.7~9.22

9月7日から22日まで 2週間あまり家内と二人でアトランタにいる息子を訪ねて アメリカ珍道中。楽しんできました。 息子が言うには「よう こんだけ 親子な旅行く組んできたな・・・」と。 面白いわね「家内はアメリカ初めて。また 何度も行く機会もないし、できるだけアメリカ見てこよう、と・・・・ 私たちの希望に息子がアレンジ チョイス すべてOkで 四方組み込んだまったく欲張りな風来坊。

息子の住んでいる「アトランタ」そして「トロント」「サンフランシスコ」を勝手気ままな風来坊 walk。 アメリカで一度行きたかったブロードウェイのミュージカル・大リーグの野球・ナッシュビルでカントリーのライブ ツア じ機旅でした。 ナイヤガラ湖・グランドキャニオンのトレイルそしてアトランタのストーン マウンティン・ロックシティ・巨大な鍾乳洞マンモス ケープのトレイル。 アメリカの大自然の大きさにただ唖然として声なしでした。 また、久しぶりにシリコンバレーのインテルも訪ねてきました。 9月11日ニューヨークテロによる破壊の記念日 アメリカの空想には国歌が流れ、いたるところに半旗。 前にはリボン。 空港での厳しすぎるほどの手荷物・身体検査に誰一人文句も言わず行列を作っている姿と重なって 自由な国がひとつにまとまっている強さというか そんな筋の通った姿勢に見入っていました。 アメリカの利己的な一面の是非は別にして。

アメリカというと「合理・効率主義で行動力はあるが利己的・創意的な国。 信頼のないことが恒常的な行動にでるのではないか・・・」と思ってきましたが、何か考えてきたことは違った一面を見たいような気がしています。むしろ 日本の方が「短絡的・形式的で ルール無視」の放任 無責任な社会」にまっしぐらに走っているような気がしています。

アメリカの方が

「精神的に豊かなものを追い求め出しているのではないか」

「社会がわりややすいルールの中にあり、その責任も浸透している」。

まだまだダウングラウンドではブーッな人達を多く見ましたが、何か日本の冷たい視線とはちがったものを感じました。

日本人がご都合主義で アメリカの勢をなしている間にアメリカの方が精神的にも社会全体が強くなっていると感じました。

アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに「アメリカの社会が大きく舵を切ったのか・・・」と感じる 2週間のアメリカ旅行でした。

ナンヤカヤ アメリカで見聞きしたこと思い浮かぶまま風来坊的にまとめ、紹介します。

「久しぶりのアメリカで」風来坊 2003.9.7.~9.22.

アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに 街を歩くと「アメリカの社会が大きく舵を切ったのか・・・」と感じる 2 週間のアメリカ旅行でした。 ほんの2 週間ばかりですが、日本へ帰ってくるともう瀬島太郎 やたらに日本のクレイジーさが目についています。

「対米適従」「アメリカの合理主義・効率経営」等と口々に言っている間に国家的には 誰からも見放された孤児への道 弱者切捨ての競争社会にまっしぐら。 はやく 村社会から脱却して精神的に深い社会への転換を図らないと・・・・・・。

「アメリカがやれ」ではありませんが、「見る」と「聞く」とでは大違い。 言葉は分かりませんが、「自分の足で歩くのがイチバンヤ!!」でした。

2003.10.10. 神戸にて
アメリカ旅行の整理の中で
Mutsu Nakanishi



【「ニューヨーク 国際テロ」が起こった9.11.
この週 アメリカではいたる所で半旗 国歌が流れていました】

久しぶりのアメリカで」風来坊【1】 2003.9.7.~9.22.

- 1-1 アメリカの大自然 地の果てまで その雄大さに声もです
- 1-2 アメリカのセキュリティ 空港で
- 1-3 アメリカのファースト フード そして オープンテラス

1-1. アメリカの大自然 地の果てまで その雄大さに声もです

やっと実現した勝手気ままな国来訪の旅。「アメリカのどっかい自然を満喫したい」期待にたがわずでした。アメリカ西海岸から東海岸のアトランタまで飛行機で約5時間。またアトランタからシカゴまで南から北へ約2時間。

南北が東西よりはるかに短いのは意外でした。でも本当に広い。西部の地球のしわのような山が続き砂漠地帯・コロラド山脈の大渓谷地帯そして南部から中部へ続くアメリカの大穀倉地帯。

旅行中 すっと晴天にめぐまれ、飛行機からも実感することが出来ました。

アトランタでは 予想もなかったドデカイー校岩の上で360度の地平線。

また 穀倉地帯をまっすぐ北へ ケンタッキーへのハイウェイを突っ切った先には巨大な鍾乳洞「マンモスケーブ」。

私たちはほんの2時間ほどの鍾乳洞ツアーだったが、1日入っていても端まで行けない大鍾乳洞。インテルの運中が取り消れて目撃していたのがこれか・・・やっぱりすごい。

楽しみだったナイアガラ滝への船からの見学 太陽の位置によって表情を変える大渓谷グランドキャニオン。飛行機から見た南中部の穀倉地帯とそこを流れるミシシッピの流れ。写真や映像で 知ってはいても 今眼前に広がる光景は期待以上。また おとぎの街のようなナイアガラオンザレークの街ですごした午後アメリカの大都会とは違った素晴らしい。

人によってそれぞれ違った印象でしょうが、私の感じたアメリカの大自然 ちょっとぶりですが、写真で・・・・・・。

● 南部から中部へ続くアメリカの大穀倉地帯とそこを流れるミシシッピ河



ミシシッピ河とその周辺の田園地帯



アメリカ南中部の穀倉地帯 アトランタ・デューバーの飛行機より

360度ぐるっと地平線 アトランタ郊外の一枚岩の頂上 ストーンマウンティン



ストーン マウンティンとその頂上からの展望

アメリカ人が自慢する大鍾乳洞 マンモスケーブ



アトランタからナッシュビル ケンタッキーへ向かうハイウェイ



国立公園
マンモスケーブ



ナイアガラの滝と美しいおとぎの街ナイアガラオンザレーク



時間によってその姿を変える大渓谷 グランドキャニオンとコロラド河



まあ やっぱり見ると縮くとは大迫力
「足であるかなあかん」が実感。

でも なんで 日本人ツアーは景色みないで、
つくや古や土産屋へ走り、さわりだけ見て
一枚写真撮って帰っていくのが・・・本
当に不思議なぐらい。
もつと ゆったり 見ればよいもの
を……。旅行社の企画もほとんど
それ。。。。。

そういういえば、日本国内のバスツアーも
温泉とみやげ物屋に一日暮。アメリカ人ま
で知っていてそんなツアー企画が多いよう
だ。
歩いてみると日本人の真実さが見えてくる。
日本人の気質でしょうが、おもしろいですね。。。。。
自分もどこかでそれやっている。 気をつけねば。。。。と。
景色の素晴らしさにひたひたながら。。。。。



1-2. アメリカのセキュリティ 【1】 空 港 で



【アトランタ】

空港での手荷物検査が厳しいと聞いていましたが、本当に厳格だ。靴もバンドもみんなX線かけて。ちょっとでも金属探知機があると個別検査。全身が引っかかるまで。

私は靴のポケットに入っていた1万円ほどの現金を盗まれた疑いが引っかかり、中々見つからず大変でした。

でも、アメリカ人は本当に良く我慢していると・・・。

息子が言うには搭乗ゲートまで行き着くまで2時間前では大変・・・と。足が重くなっていましたが、それくらい見ておかないと厳しかったです。

ゲートを先にくぐり、搭乗口に行かなくてはならぬ。ゲートを通り抜けて早く搭乗検査を受けたいと見通したはずですが、これは 国内線でも同じ。したがって、ゆったりと空港内で搭乗口まで、見送りの人達と合ったり出来なくなりました。

空港が整備され、ビッグになったこともあり、10年ほど前のあの人がごった返して、むんむんしていた空港の中の雰囲気はまったくなし。シカゴ・サンフランシスコの空港は抽子抜けて、ゲートをくぐって搭乗まで空港内でゆったり。アメリカ航空業界の不便の深刻さ 見たように思えます。また 今は空港が一番安全かもしれません。



【シカゴ】



【サンフランシスコ】

1-3. アメリカのファースト フード そしてオープンテラス

「マクドナルド」大ききほく寸分置わぬのにアメリカの方が高いのはなぜ・・・。
3ドルから5ドルもする。
日本の59円マックがなつかしい。

メキシカンあり、ホットドッグあり
それにワッフル・サンドウィッチ
数々のサラダ 多種多様。
でも、スナックやサンドイッチなどファーストフードは
留めて日本より高いがそのボリュームには驚かされる。

日本人にとっては二人分。
食事と一緒にみんな飲んでる あのコーラの大きさも
・・・・・・ 朝から夜の大きさである。

でも「シェアするから二つに」というとスープでもサンドイッチでもサラダでも何でも感じよく2つに分けてくれる。日本ではちょっと言えないと思うレストラン所でも分けられるのは楽である。
食事に行って 残れば、「ドギーバッグ」につめてもらって帰るのもごく普通。
家内は初めびっくりしていたが、二人で行くと楽ですね。

アメリカのサンドイッチ 量めてくれるのですが、パンの外皮だけ。
「中途半端やったら腹めるな」といいたいのですが、これが正義派といわれると・・・イヤになります。

また、何であれ外側のテラスでランチやティーしたがるのが 全く不思議なほど いたるところにオープンテラスの店がある。
カンカン照りの暑い日差しの中でもオープンテラス 夜も店の中 空いているのにオープンテラスが満員。街を眺めながら食事するのは私も好きですが、暑い日差しの中や人ごみの通りとなると もう ビックリです。

10.1. 「久しぶりのアメリカ で」 見聞録【2】 2003.9.7~9.22

- 2-1 地下鉄の中で ハンディキャップを守る思いやりと絆
- 2-2 サンフランシスコで「不要な車道で高速道路建設を放棄」したという
- 2-3 アメリカのセキュリティ【2】 シリコン バレー インテル博物館で
- 2-4 アメリカで初見したインターネット社会
- ◆ 「久しぶりのアメリカで」

2.1. アトランタの地下鉄の中で ハンディキャップを守る思いやりと絆

アトランタは黒人がほぼ半数を占める黒人の多い街。
地下鉄とバスが連動していて バスの駅は地下鉄の駅の中であり、バスに乗り継ぐ時はただである。もっともバスから地下鉄は乗り継がない。
また 駅名がアメリカらしい。





アトランタの街の中心 five point から東西・南北路線が延びているのですが、ここから南へ七つ目の駅は S1 駅(South One) 西へ七つ目の駅は W7 駅(West Seven) 本當にわかりやすいですね。

アメリカの地下鉄は「汚くて治安が悪い」が代名詞でしたが、アトランタは駅に必ずポリスがいて、車内もきれいで全く不安を感じず、フリーに足として街に行

くのに使いました。オリンピックで大きく変わったのですが、ダウンタウンも綺麗ですし、治安もよくなりました。アメリカの好景気の差は色々あるのですが、やっぱり、長期の好景気がアメリカの街を随分変えたと感じました。ふりかえってみると、アメリカが好景気の熱気で満ちている時にはそんなに感じなかったのですが、.....



一番感動した出来事がありました。車椅子で乗り込んでくるハンディキャップの人にも乗客はみんな親切。バス・地下鉄そして街で、自由にでかけるハンディキャップの人達を見かけました。



ダウンタウンで片手しか自由が利かない黒人が車椅子を一人で操作して地下鉄に乗り込んできたのですが、乗客の一人がすぐ入り口側に車椅子を固定して横で見守り、降りてゆく人がみんな声掛けして降りてゆく。本當に自然でビックリ。彼の駅でどこまでも降りてゆくまでずっとでした。また、降りるときも、ドアが開いて、彼が降りるまでみんな動きを待っています。日本ではこんなことを考えられない光景でした。そういえば、飛行機が駐機場に到着し、ストップするや否や荷物降ろし、人を引き分け前へ前へ進んで行くのは日本人。ほかはみんな前の人が通路に出てくるのを待って前から順番に。機の上の荷物を降ろす手助けもあちこち



また、別の時に同じような機会にでっこわし、何でもいいから声掛けしよう.....。

「どうも どうも」といったり「Good Day」といったり。本當は「ガンバッテ」とでも言えばよかったのか.....でも、にこっと笑って返してくれました。ダウンタウンの怖さばかりが頭にあったので、逆に黒人の人たちのやさしさや絆のつよさに本當にビックリしました。そんな街の中で失敗もやらかしました。

バス停で一番前で車内と並んでいたのですが、バスがきたので乗り込むと運転手から乗り込むのをとめられ、「降りろ」という。後ろを見ると後ろの方にハンディキャップの人がいる。みんなその人が乗り込むまで待っている。彼にきずかなかったとはいえ、感心しました。バス停で、みんな注意している。これがルールなのでね。

2-2 サンフランシスコで「不便を承知で高速道路建設を放棄」したという



サンフランシスコは昔の続く伝統の街並を守るため、街に高速道路が通るのを拒否したという。サンフランシスコをひとつの大きな丘とするとこの丘の斜面にビジネス街もダウンタウンもすべてあり、両側が崖に突き出した狭い半島の先の狭い丘の群の中、輪切りの街路と丘へ登る垂直な街路に古い家並みが立ち並び、70万人が暮らすという。丘の頂点を中心で東西南北にクロスした、ケーブルカーが走り、輪切りの街路を路面電車とトロリーバスが走る。それらの公共交通と車が同じ平面を走る。でも敷設したケーブルカー・路面電車優先、乗客の歩行優先である。ケーブルはクロスする街路の交差点に止まる。ケーブルが止まるたびに四方の車の流れが止まる。車に乗っている方からすると本當に非効率・スピードも出せないお手上げ状態と聞かれますが、サンフランシスコ市民はこの交通システムを選択したという。ビックリです。



外から考えると「効率・効率」のアメリカで、しかも最先端に行く「半導体・情報産業」のひしめくこのサンフランシスコの選択。ちょっと意外で、何か新しいアメリカの動きに見えました。まあ、スピードが出ていないので大きな事故はないかもしれないが、ビックリするような大きな音を立てながら、消防車がフルスピードで交差点を通過して行く。

事故が起これないのが不思議であるが、ルールがしっかり守られているからだろう。ほかの車が消防車のまねしたらそれこそ事故だらけと聞かれます。ここでも【サンフランシスコ】ルール破りがいない。不思議でもあり、感心もする。



2.3. アメリカのセキュリティ【2】 シリコンバレー インテル博物館で

久しぶりにシリコンバレーを訪ねるべく、サンフランシスコ カールトレイン駅へ。
ところが 週末は工事のため運休という。
さっぱり時刻表が作られ、代替バスがサンフランシスコとサンノゼを走っている。
別に何ということなく駅も静かなものである。
このカールトレインがサンノゼとサンフランシスコを結ぶ通勤電車と聞いていたので拍子抜け。
さすが車社会である。

【カールとレイン サンノゼ駅で】



高速度道路をバスで約1時間 ハイウェイを走るとあふれたシリコンバレーの山並みが見えだすとほまなく青のインテル色した建物が左手にみえてくる。
インテル博物館に入ってゆくとセキュリティがストップをかけ、外へ出ろという。
表に横かに「手ぶらで 手荷物はいすべて車において来い」との注意書き。
「日本からきたので 手荷物を置かせて 何とかしてくれ」と頼み込みましたが、何が何でも道路の向こう側に荷物をもって来いという。
はっと気付きましたが、爆弾自爆防止の措置。何を言っても駄目。
便法なしとセキュリティが全く取り合ってくれなかったのはさすが世界企業インテル。 昔仕事していた頃を思い出しました。
インテルの厳しいセキュリティもここまで来たが・・・と感心すると共にみんな本当に正面から「テロ」と戦っている事知りました。
感心ばかりしてられないのですが、何とか博物館に行ってきました。どうしたかは後。
さすが、内外を作らぬインテル 世界企業のセキュリティの厳しさとルールを貫き守る姿勢に首を思い出しました。
感心ばかりしていて 家内には怒られましたが・・・



【サンタクララ インテル博物館】

2-4. アメリカで直観見たインターネット社会

大リーグやプロドウェイ ミュージカル・ファッシュビルでのカントリーミュージックの切符やアトランタのホテルの予約やらすべてインターネットで電子が準備してくれていました。
「インターネットにアクセスして予約。予約結果をプリンターで打ち出してそれを当日持参し、窓口で入場券にひきかえ。君もみんな決まっている」という。
手続れたものである。代金はクレジットで処理。
予約結果をプリントアウトした紙にはバーコードが付され、それですべて座席まで完了。当日人でごった返す中ほとんど詰りもとらず、すぐ入場券に交換。
日本だと何やかや 訂明したり、色々・・・どうにも もう 何もなし。ビックリでした。
そういえばクレジットカードはスーパーでも ファーストフードでも同の出店でもごく普通に。

日本でもチケットをインターネットや電話で予約して、ローソンで引き換えすることなど進んでいるのは知っていますが、日常業務的に実にスピーディーに行われているのにはビックリ。まだ ナッシュビルのカントリーミュージックのコンサート。司会者が繰り返し「ダンカン」「ダンカン」と言っている。誰かミュージシャンの名前と覚えていたが、何度も聞く中 ぶっと気がついて「com」でした。
英語の解らん風采がめずかしい店です。
そういえば TV もしきりにこの言葉連発しています。
今度は インターネットに携帯電話・クレジットカードが加わって五々便利になる一方 操作できないと全く生活できなくなり、生活老人になること必定。

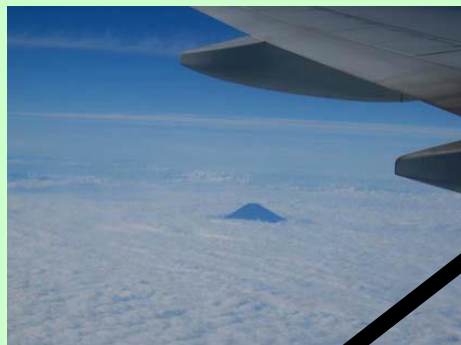
せつせと 色々チャレンジしていかないと・・・と感心しています。

◆ 「久しぶりのアメリカ」で

アメリカの入国時の入国に熱心になるとともに 街を歩くとも「アメリカの社会が大きく前進したのが・・・」と感心する 2 週間のアメリカ旅行でした。 ほんの 2 週間ばかりですが、日本へ帰ってくるとうるさく大層やたらに日本のクレージさが目につきます。
「対米追従」「アメリカの経済主義・効率性」など口々に言っているのに実際には何れも何れも我が国への過剰な切捨ての態度を感ずる。
はやく村社会から脱却して精神的に強い社会への転換を望まない・・・・・・。
「対米追従」「アメリカの経済主義・効率性」など口々に言っているのに実際には何れも何れも我が国への過剰な切捨ての態度を感ずる。
はやく 村社会から脱却して精神的に強い社会への転換を望まない・・・・・・。
ほんの 2 週間ばかりですが、日本へ帰ってくるとうるさく大層やたらに日本のクレージさが目につきます。
「アメリカのクレージ」ではありませんが、「見る」と「聞く」とでは大違い。
言葉は分かりませんが、「自分の国でよくのガイジンヤ」でした。

神戸にて アメリカ旅行の翌日の中で

Mut su Nakarishi



アメリカ中西部
の穀倉地帯



グランドキャニオン
& ナイアガラ



アメリカ旅行記

2003.9.7. - 9.22.

by Mutsuo & Kikuko



アトランタ



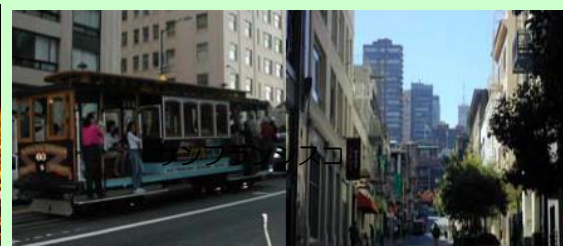
ナッシュビル



トロント



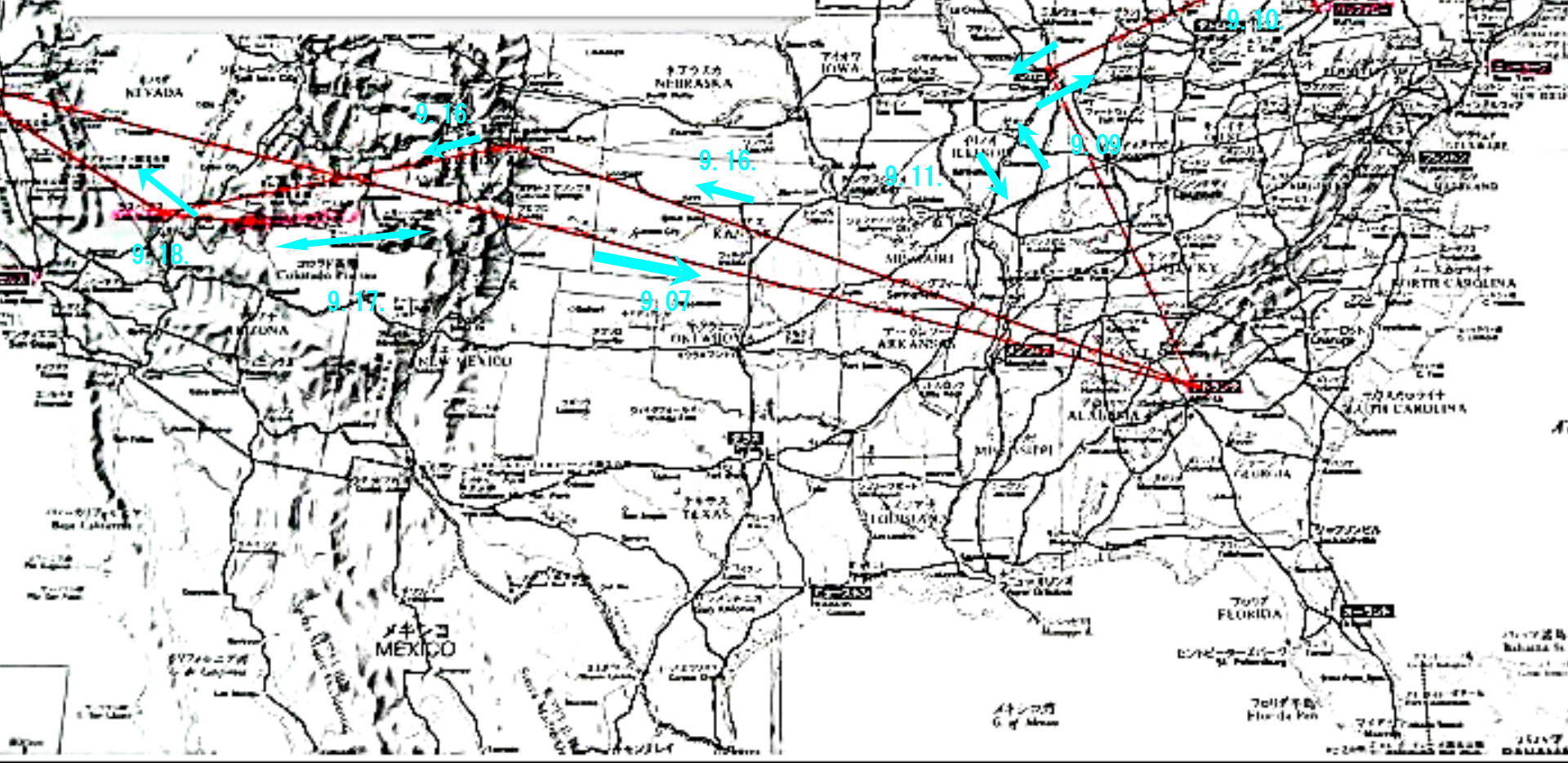
ラスベガス



サンフランシスコ

アメリカ旅行記 2003.9.7.-9.22.

1. アトランタ Walk..
2. トロント・ナイアガラ Tour..
3. Country Music の 都 ナッシュビル..
4. ラスベガス..
5. グランド キャニオン..
6. サンフランシスコ..



◆ 「久しぶりのアメリカ で」 風来坊 2003.9.7~9.22

9月7日から22日まで 2週間あまり家内と二人でアトランタにいる息子を訪ねて アメリカ珍道中。楽しんできました。

息子が言うには「よう こんにちは 勝手な旅行くんできたな・・」と。

といわれても「家内はアメリカ初めて。また 何度も行く機会もないし、できるだけアメリカ見てこよう」と・・・・・

ぼくの希望に息子がアレンジしてやると言ってくれたチョイス すべてOKでまったく欲張りの風来坊。

息子の住んでる「アトランタ」そして「トロント」「サンフランシスコ」を勝手気ままに walk。

ナイアガラ滝・グランドキャニオンのトレイルそしてアトランタのストーン マウンティン・ロックシティ・巨大な縫乳洞マンモス ケープのトレイルをも歩いて、アメリカの大自然の大きさにただ唖然として声なしでした。

アメリカで一度行きたかったブロードウェイのミュージカル・大リーグの野球・ナッシュビルでカントリーのライブ ツアに息子が連れて行っていってくれて、ご機嫌でした。久しぶりにシリコンバレーのインテルも訪ねてきました。

9月11日ニューヨークテロによる破壊の記念日 アメリカの空港には国歌が流れ、いたるところに半旗。胸にはリボン。空港での厳しすぎるほどの手荷物・身体検査に誰一人文句も言わず行列を作っている姿と重なって アメリカの利己的な一面の是非は別にして、自由な国がひとつにまとまっている強さというかそんな筋の通った姿勢に見入っていました。

◆ 空港で

空港での手荷物検査厳しいと聞いていましたが、本当に徹底的。靴もバンドもみんなX線かけて。ちょっとでも金属探知機になると個別検査。

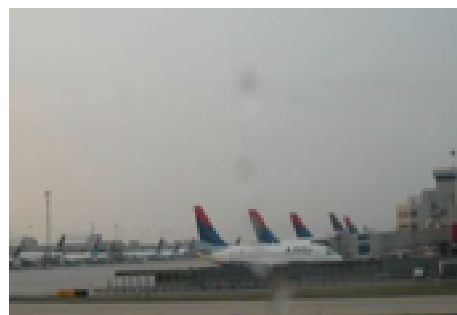
全身が引っかかるまで。私は胸のポケットに入っていた1枚角ほどの箔で包まれた錠剤が引っかかり、中々見つからず大変でした。

でも、アメリカ人本当に良く我慢していると・・・・・。

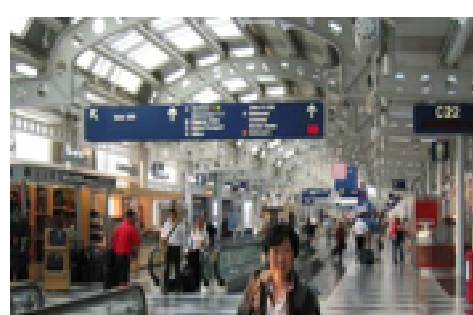
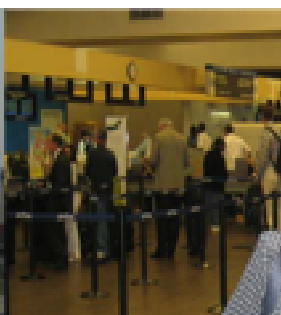
息子が言うには搭乗ゲートまで行き着くまで2時間前では大変・・と。たかをくくっていましたが、それくらい見ておかないと厳しかったです。

でも、お陰で10年ほど前のあの人でござた返しむんむんしていた熱気はまったくなし、シカゴ・サンフランシスコの空港拍子抜けでした。

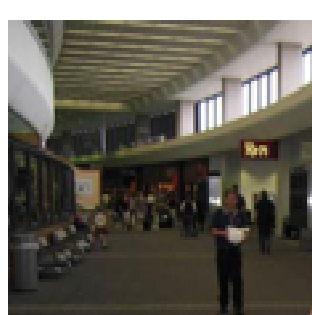
今は空港が一番安全かもしれません。



【アトランタ】



【シカゴ】



【サンフランシスコ】

◆ マクドナルド ファースト フード & オープンテラス



「マクドナルド」大きさばかり分変わらないのにアメリカの方が高いのはなぜ・・・ 3ドルから5ドル 日本の59円マックがなつかしい。

スナックやサンドイッチなどファーストフード総じて日本より高い。でも そのボリュームにはおどろかされる。でも「シェアするから二つに」というとスープでもサンドイッチでもサラダでも何でも感じよく分けてくれる。日本ではちょっと言えないと思う所でも分けられるのは楽。

家内は初めびっくりしていたが、二人で行くと楽ですね。

アメリカのサンドイッチ 温めてくれるのですが、パンの外皮だけ。中途半端やったら暖めるな」といいたいのですが、これが正統派といわれると・・・イヤになります。

また、何であれだけ外のテラスでランチやティーしたがるのか・不思議です。

カンカン照りの暑い日差しの中でもオープンテラス 夜も店の中好いているのにオープンテラスが満員。街を眺めながら食事するのはほくも好き。でも 日中や人ごみの通りの中となると もう ビックリです。

◆ 地下鉄やバスの中で

アトランタは黒人がほぼ半数を占める黒人の多い街。地下鉄とバスが連動していて バスの駅は地下鉄の駅の中にあり、バスに乗り継ぐ時はただである。もっともバスから地下鉄は乗り継げない。また 駅名がアメリカらしい。街の中心 five point から東西・南北路線が延びているのですが、ここから南へ一つ目の駅は S1 駅 西へ七つ目の駅は W7 駅 本当にわかりやすいです。アメリカの地下鉄は「汚くて治安が悪い」が代名詞でしたが、アトランタは駅に必ずポリスがいて 車両もきれいで全く不安を感じず。



車椅子で乗り込んでくるハンディキャップの人にも乗客はみんな親切。ダウンタウンで片手しか自由が利かない黒人が車椅子で地下鉄に乗り込んできたが、乗客の一人がすぐ入り口横に車椅子を固定してやって、降りてゆく人がみんな声掛けて降りてゆく。本当に自然でビックリ。ダウンタウンの怖さばかりが頭にあったので、逆に黒人の人たちのやさしさや絆のつよさに本当にビックリしました。

もうひとつ ビックリしたこと。バス停で一番前で家内と並んでいたのですが、バスがきたので乗り込むと運転手から乗り込むのをとめられ、降りろ」という。後ろを見ると後ろの方にハンディキャップの人がいる。みんな その人が乗り込むまで待っている。これが、ルールなのですね。感心しました。

◆ サンフランシスコで

サンフランシスコは丘の続く伝統の街並を守るため、街に高速道路が通るのを排除したという。
サンフランシスコをひとつの大きな丘とするとこの丘の斜面にビジネス街もダウンタウンもすべてあり、轢切りの街路と丘へ登る垂直な街路に古い家並みが立ち並び、丘の頂点を中心に東西南北にクロスしてケーブルが走り、轢切りの街路を路面電車とトロリーバスが結ぶ。それらの公共交通と車と同じ平面を走る。でも徹底したケーブルカー・路面電車優先 乗降客の歩行優先である。ケーブルはクロスする街路の交差点に止まる。ケーブルが止まるたびに四方の車の流れが止まる。車に乗っている方からすると本当に非効率・スピードも出せないお手上げ状態。でも サンフランシスコ市民はこの交通システムを選択したという。ビックリです。



【サンフランシスコ】

まあ スピードが出ていないので大きな事故はないかもしれないが、ビックリするような大きな音を出しながら、消防車がフルスピードで交差点を通過して行く。事故が起こらないのが不思議であるが、ルールがしっかり守られているからだろう。ほかの車が消防車のまねしたらそれこそ事故だらけと思いますが、ここでも

アメリカではルール破りがいない。不思議であり、感心する。

◆ シリコン バレー インテル博物館での出来事

久しぶりにシリコンバレーを訪ねるべく、サンフランシスコ カールトレイン駅へ。

ところが 週末は工事のため運休という。きっちり時刻表が作られ 代替バスがサンフランシスコとサンノゼを走っている。別に何ということなく駅も静かなものである。このカールトレインがサンノゼとサンフランシスコを結ぶ通勤電車と聞いていたので拍子抜け。さすが 車社会である。

高速道路をバスで約1時間 ハイウェイを走ると赤茶けたシリコンバレーの山並みが見えだすとまもなく青のインテル色した建物が左手にみえてくる。インテル博物館に入ってゆくとセキュリティがストップをかけ、外へ出るという。表に確かに「手ぶらで 手荷物はすべて車において来い」との注意書き。

日本からきたので 手荷物を置かせて 何とかしてくれ と頼み込みましたが、何が何でも道路の向こう側に荷物ぽって来いという。

はっと気付きましたが、爆弾自爆防止の措置。何を言っても駄目。インテルの厳しいセキュリティーここまで来たか・・・と感心。便法なしとセキュリティが全く取り合ってくれなかったのはさすが。感心ばかりしてられないのですが、何とか博物館に行ってきました。どうしたかは秘。さすが、例外を作らぬインテル 世界企業のセキュリティの厳しさとルールを貫き守る姿勢に昔を思い出し、改めて感心。

感心ばかりしていて 家内には怒られました・・・



【カールとレイン サンノゼ駅で】



【サンタクララ インテル博物館】

◆ インターネット社会に接して



大リーグやブロードウェイ ミュージカル・ナッシュビルでのカントリーミュージックの切符やアトランタのホテルの予約やらすべてインターネットで息子が取ってくれました。どれも インターネットでアクセスして予約。予約結果をプリンターで打ち出してそれを当日持参し、窓口で入場券にひきかえ。代金はクレジットで処理。予約結果をプリントアウトしてそのプリントアウトした紙にバーコードが付され、それですべて座席まで完了。当日人でごった返す中ほとんど時間もとらず、すぐ入場券に交換。ビックリ。そういえばクレジットカードはスーパーでも ファーストフードでも街の出店でもごく普通に使われている。

日本でもチケットをインターネットや電話で予約して、ローソンで引き換えすることなど進んでいるのは知っていますが、日常茶飯事的に実にスピーディーに行われているのにはビックリ。

また ナッシュビルのカントリーミュージックのコンサート。司会者が繰り返し繰り返し「ダンカン」ダンカン」と言っている。誰がミュージシャンの名前かと思っていましたが、ふっと気がついて「.com」でした。英語の解らん風来坊恥ずかしい話です。そういえば TV もしきりにこの言葉連発しています。今後は インターネットに携帯電話・クレジットカードが加わって益々便利になる一方 操作できないと全く生活できなくなり、独居老人になること必定。せっせと色々チャレンジしていかないと・・・・・・と感じています。

アメリカというと「合理・効率主義で行動力はあるが利己的・即物的な国。伝統のないことが短絡的な行動にでるのではないか・・・」と思ってきましたが、何か考えてきたこととは違った一面を見たような気がしています。むしろ日本の方が短絡的形式的でルール無視の放任無責任な社会にまっしぐらに進んでいるような気がしています。

アメリカの方が「精神的に豊かなものを追い求め出しているのではないか」「社会がわかりやすいルールの中にあり、その責任も浸透している」。まだまだダウンタウンではブアーな人達を多く見ましたが、何か日本の冷たい視線とはちがったものを感じました。



日本人がご都合主義でアメリカの物まねしている間にアメリカの方が精神的にも社会全体が強くなっていると感じました。



アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに街を歩くと「アメリカの社会が大きく輪を切ったのか・・・」と感じる 2 週間のアメリカ旅行でした。

「対米追従」アメリカ的合理主義・効率経営」など口々に言っている間に国際的には誰からも見放された孤児への道 弱者切捨ての競走社会へまっしぐら。

はやく 村社会から脱却して精神的に深い社会への転換を図らないと・・・・・・・・。

ほんの 2 週間ばかりですが、日本へ帰ってくるともう満島太郎 やたらに日本のクレージさが目についています。

2003.10.10. 神戸にて

アメリカ旅行の整理の中で Mutsu Nakanishi

この旅行の計画から航空券・ツアー・ホテルの手配までしていただいたご近所の高橋さんご夫妻 元 JTB にお勤めのプロ。

息子に「好き勝手ほうだいの旅行」といわれた風来坊の旅につきあっていただき ました。本当にありがとうございました。

思いつきを次々と組み込んでもらって ツアーコンダクタ 泣かせだったと思います。

計画の時はもとより、旅行中もスケジュール表片手に飛行機の搭乗・座席まで目を追って 日本でチェックしていただいていたと聞きました。

ほくなど関心なくて知りませんでしたが、この旅行で使った飛行機の搭乗回数「10 回」とすぐ教えてもらってまたビックリ。

さすが 旅行のプロ。 ありがとうございました。

家内からも「あんたは とてもやないが、みんないっしょのツアーは無理。 好き勝手に走り出して・・・」と。 風来坊ゆえお許しを